

Ⅱ 研究内容

1. 「大事な言葉を考えながら読み、想像を広げながら進んで読んだり書いたりできる学習」

(単元名：いろいろなお話を読んで、好きなところを主人公に「お手紙カード」で伝えよう。

「スイミー」東京書籍1年下)

(1) 指導のねらい

<単元の目標>

○登場人物に寄り添いながら物語を読むことで、想像が広がる楽しさを味わい読書活動を豊かにする。

- ・登場人物の行動や会話に着目して、物語の内容をとらえることができる。
- ・物語の好きなところを選び、主人公への「お手紙カード」で紹介し合うことができる。

<教材について>

本教材は、まぐろに襲われ仲間を失ったスイミーが、「すばらしいもの」「おもしろいもの」を見つけて元気を取り戻し、新しい仲間と協力して大きな魚を追いつけるというお話である。児童は、小さいスイミーに共感しながら海の中を旅し、知恵と勇気をもって大きな魚に立ち向かうスイミーに強く心ひかれるだろう。

本教材には三つの特長がある。一つ目は、一文が短く、スイミーのしたことや言ったことが明確に表現されている。そのため、スイミーの行動や会話に着目しやすく、自分の生活経験と重ねながら、スイミーの気持ちに寄り添って読み進めていくことができる。二つ目は、場面の移り変わりとともにスイミーの気持ちや様子も変化している。そのため、場面と場面を比較して読むことで、スイミーの気持ちの変容をとらえることができる。また、勇気や協力などの価値についても考えることができる。三つ目は、表現の工夫が多く見られる。「なまめは スイミー。」「にげたのはスイミーだけ」というように叙述が詩的である。加えて、「にじいろの ゼリーのよう な くらげ。」「水中ブルドーザーみたいな いせえび。」というように体言止め、倒置法、比喩などが効果的に使われている。これらの語句や、挿絵に着目させることにより、海の中の様子やスイミーの心情を豊かに想像して読むことができる。

このように、教材の特長を生かして、スイミーに同化して心内語を書いたり、スイミーを応援し、頑張りを認める手紙を書いたりする活動を取り入れることによって、自分の思いをふくらませ、楽しみながら読むのに適した教材である。

(2) 授業の実践

視点① 教材文分析について

○付けたい思考力と指導事項の系統

- ・比較・順序・理由付けの思考を用いる。
- ・指導事項の系統を踏まえ、前単元と本単元、次単元の関連付けを図る。

○読みの課題

- ・初発の感想を生かし、学習課題を設定する。(興味、関心の高いもの・疑問)
- ・登場人物の行動の変化と場面の様子の関連をとらえる課題を設定する。

本単元で付けたい言語の力は、「自分の経験とつなげながら言語を実感的に理解する力」「自分で本を

選んで楽しんで読書する力」である。これは、指導事項Cオ「文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめ、発表し合うこと」、カ「楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読むこと」を踏まえたものである。

第Ⅰ次1時：初発の感想には、まず、一番好きな文とその理由を書かせ、児童がどこに興味・関心をもったかや、読みの実態をとらえた。次に「おもしろい」「どきどきする」「ほっとする」などの感想を表す言葉（資料①）を出し合い、観点をもたせて感想を書くようにした。そうすることで、語彙を増やすとともに、一読しただけでは見過ごしてしまう言葉や、スイミーの言動に着目することができた。最後に、「スイミーに聞きたいこと」を書かせ、読みの課題につなげられるようにした。

おもしろい・きれい
どきどき・わくわく
すごい・カッコいい
うれしい・さびしい
かわい・かわいそう
つよい・びっくり
ほっとする・すき
など

（資料① 感想(の観点)を表す言葉）

第Ⅰ次2時：初発の感想を交流しながらあらすじをつかめるようにした。「一番好きな文とその理由」（資料②）を伝え合えるようにする中で、友達の意見につなげて自分の感想も発表できるようにした。児童は意欲的に感想を出し合い、同じ文でもとらえ方に違いがあることを知ったり、それぞれの好きな文をつなげて、あらすじをつかんだりすることができた。

- ・およぐのはだれよりもはやかった。名まえはスイミー。
（理由：スイミングみたいで、およぐのがすきそうだから。かわいいから）
- ・すばらしいものがいっぱいあった。
（理由：じぶんもほんものを見てみたいから）
- ・水中ブルドーザーみたいなせえび
（理由：つよそうだから、カッコいいから、おもしろいから）
- ・「にじいろのぜりーのようなくらげ」
（理由：きれいだから、たべてみたいから）
- ・「出てこいよ。みんなであそぼう。おもしろいものがいっぱいだよ。」
（理由：一人ぼっちになったけど、ともだちがいたから。大きなさかながいるのに外に出るのがカッコいいから。）
- ・「そうだ。みんないっしょにおよぐんだ。うみでいちばん大きなさかなのふりをして。」
（理由：とてもいいかんがえだから、やさしいから、まぐろをおい出してすごいから）
- ・「ぼくが、目になろう。」
（理由：スイミーが黒でよかったから、かしこいから、しんけんでカッコいいから）

（資料② 一番好きな文とその理由）

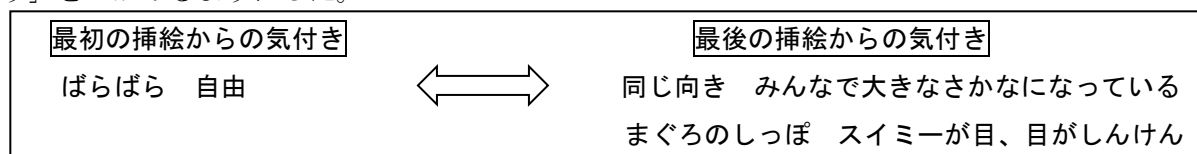
感想を交流することで、教材への興味・関心が高まった。

Ⅱ次5～10時で読みを深める基盤となった。

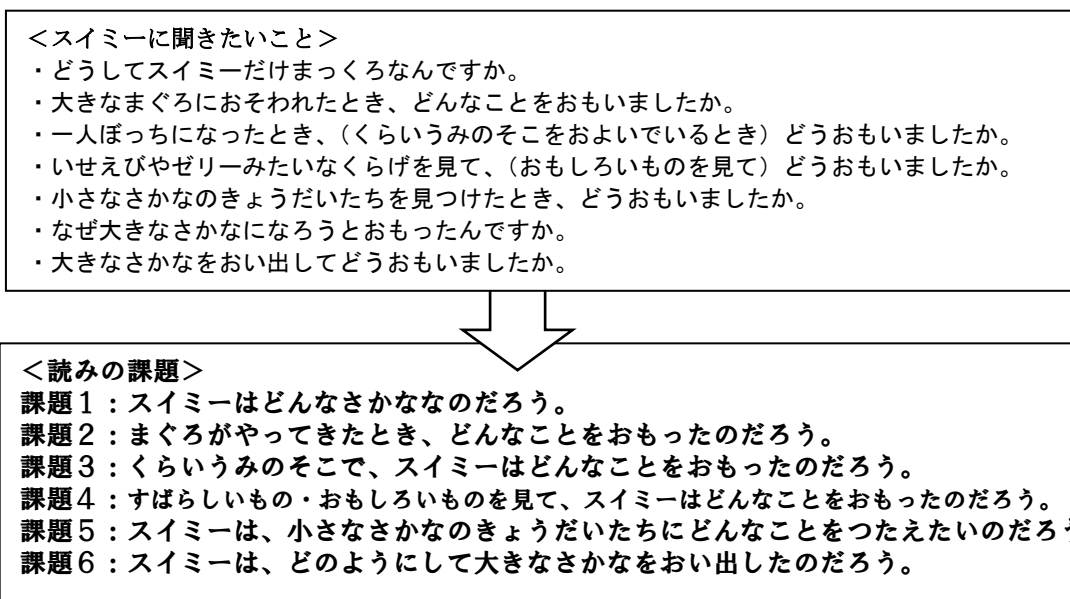
- ・スイミーは小さいのに、およぐのがだれよりもはやいからすごい。
- ・名前がすいすいおよいでるみたい。
- ・おそろしいまぐろがきたとき、どきどきした。びっくりした。
- ・まぐろからにげたときのかおが、「にげなくちゃ」というかおだった。
- ・スイミーが一人ぼっちなのがかわいそう。さびしそう。
- ・水中ブルドーザーみたいなせえびが、カッコいい。かっこうをつけてるみたいで面白い。
- ・スイミーがげん気をとりもどしていくのがいい。わくわくしてそう。
- ・あかいさかなたちにあえてうれしそう。ほっとした。
- ・スイミーがいろいろかんがえて、うんとかんがえてえらい。やさしい。
- ・「ぼくが目になろう」が、かしこい。
- ・大きなさかなをおいだしたのがすごい。カッコいい。ゆう気がある。

（資料③ 観点をもって書いた感想）

授業の最後に、最初（一場面）と最後（六場面）の挿絵を比べ、同じところとちがうところを話し合った。2枚の挿絵を比較することで、単元全体の大きな課題「どうして一ぴきの大きなさかなになったのだろう」をつかめるようにした。



I次3時：場面分けをした後、「スイミーに聞きたいこと」を交流し、各場面の読みの課題を設定した。



教室に学習計画を掲示し、何を、何のために学習していくのかを明確にしたことで、学習意欲を高めるとともに学習の見通しをもたせることができた。

視点②交流について

○話し合い活動の目的（何のために）と内容（どんなことを）

- ・ 児童が楽しんで行い、付けた力を使ってみたいと感じることのできる言語活動を設定する。
- ・ 板書やノートを用いて、視覚的に学習活動の目的と内容を見通せるようにする。

○話し合い活動の形態や方法

- ・ 横や縦のペア交流を全体交流の前に取り入れるようにする。

○交流の場における発問や助言

- ・ 想像を広げるような発問・助言を工夫する。

I次では、初発の感想で三つのことを書き、それらを交流する時間を十分とったことで、目的をもって何度も教材文を読み返し、自分では気付かなかった友達の感想を聞くことができた。その結果、児童は自然に話の大体をつかみ、読みの基盤ができた。そのため、II次では情報の取り出しを的確に行い、交流を通して想像をふくらませながら、読み深めることができた。

II次5～10時では、指導者が実感的にとらえさせたい言葉や物語の中心となる言葉（資料④）を選び、授業の中でどのように組み込んでいくかを考えた。各場面で着目した言葉は以下の通りである。

第一場面	だれよりも	(泳ぐのが得意で大好きというスイミーの特長)
第二場面	ミサイルみたいに	一ぴきのこらずのみこんだ (まぐろの恐ろしさ)
第四場面	だんだん	(スイミーの気持ちの変容 と 海の生き物の関係)
第五場面	いろいろかんがえた。うんとかんがえた。	(スイミーの一生懸命さ)
第六場面	大きなさかなのふり	もちばをまもる (言葉の意味と場面の様子)

資料④ 実感してとらえさせたい各場面の大事な言葉

また、毎時間、スイミーになって心内語を書くようにした。書く時間を十分に確保したので、どの児童も自分なりの考えをもって交流活動に参加することができた。全体交流の前にはペア交流を行った。自分が書いたものを声に出して読むことで、考えを確かめ、自信をもつことができた。また、積極的に全体交流に参加できない児童も、自分の考えをペアの友達に伝え、感想を言ってもらうことで、自信につながった。全体交流では、友達の考えと比べながら聞き、似ているところや、「いいな」と思うところを探したり、疑問に思うことを質問したりしながら進めた。その際、ハンドサインや話型を使い「〇〇さんと同じで・・・です。」や「〇〇さんと似ているところがあります。」「〇〇さんとはちがって・・・です。そのわけは～だからです。」などと発表することができた。

さらに、毎時間、比較を取り入れた。場面と場面や挿絵と挿絵、言葉と言葉、スイミーと小さな魚のきょうだいたちの会話文などを比較し、思考を促した。

Ⅱ次8時：(本時) 課題4：すばらしいもの・おもしろいものを見て、スイミーはどんなことをおもったのだろう。では、「情報の取り出し」を行った後、登場人物同士の「比較」や、なぜすばらしいのか・おもしろいのか「理由付け」をして、「言葉から想像をふくらませて読む力」と「思考力」を高める学習展開を行った。

まず、三場面の挿絵から一人ぼっちで暗い海の底を泳いでいるスイミーの様子や気持ち、「こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。」を想起させた。三場面と、四場面最後で「げん気をとりのどした」というスイミーの気持ちを矢印で結び、比較できるようにした。そうすることで、なぜ元気を取り戻したのかや、おもしろいものを見た時のスイミーの思いについて学習の見通しをもてるようにした。

次に、「何が、どのように(なぜ)すばらしいもの・おもしろいものなのか」を中心に、スイミーになって心内語を書き【理由付け】、交流できるようにした。交流では、海の生き物同士や、スイミーと生き物とを比べながら、おもしろさやすばらしさに対する新たな価値に気付けるよう支援した【比較】。このように交流することで読みを深めることができた(資料⑤)。

- | |
|--|
| ・くらげはゼリーみたいで→やわらかく、やさしいもの |
| ・いせえびは水中ブルドーザーみたいで→かたくて強そう。 |
| ・ぼくは真っ黒 →だけど、海には色とりどりのものがあってきれい。
くらげ(にじいろ) 岩(ドロップ) さかなたち(カラフル) いそぎんちゃく(ももいろ) |
| ・ぼくは一人ぼっち →だけど、わかめやこんぶの林→いっぱい、かくれんぼができる。
見たこともないさかなたち→数えきれないくらい。みんな同じ向きで同じ動き。 |
| ・ぼくは小さい →だけど、いせえびは大きい。
うなぎは長い。
→だけど、まぐろみたいにぼくを食べない。襲ってこない。怖くない。やさしい |
| ・やしの木→風にゆれる いそぎんちゃく→波(水流)にゆれる →もやもやしている |
- (資料⑤ 比較を通して読み深めたこと)

水中ブルドーザーと、やしの木は写真を提示して動作化を行い、イメージをもてるようにした。さらに、見えない糸で引っ張られている魚たちも動作化して、言葉の意味や動きの面白さを理解できるようにした。

最後に、「だんだん元気をとりもどした」の「だんだん」に着目して、スイミーの気持ちを心情曲線で

表すようにした。そうすることで、スイミーの気持ちの変容と言葉の意味を視覚的にも、つかむことができた。さらに、三場面の「こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。」という気持ちは、どんな言葉に変わったかをペア交流し、話し合った（逐語録①）。

T：元気を取り戻して、（こわい、さびしい、かなしい）は、どんな言葉に変わったのでしょうか。

ペアで話し合しましょう。

ペア交流することで、スイミーの気持ちの変容を、叙述を基に想像し、とらえることができています。

C1：楽しいです。 C2：いっぱい友だちができたみたい。 C3：うれしくて、元気になった。

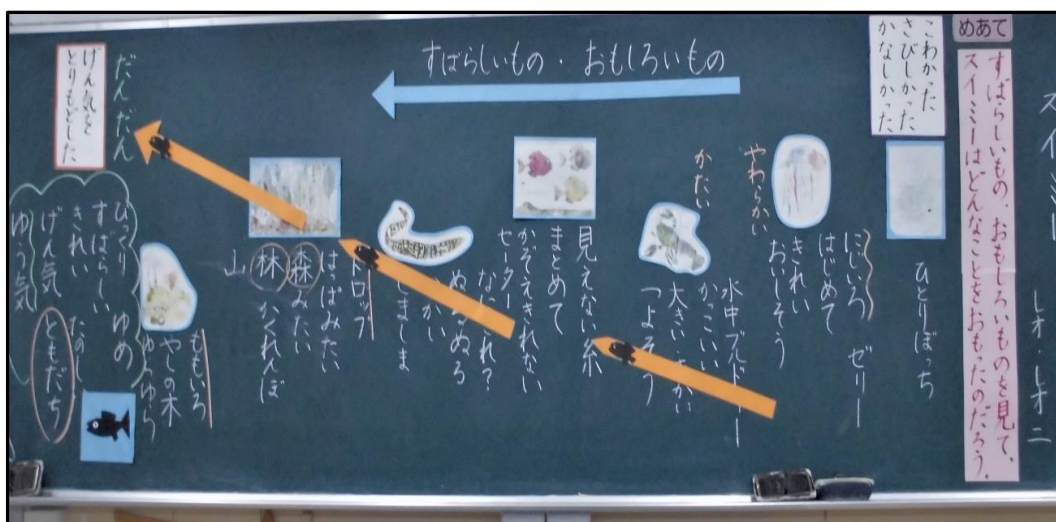
C4：ちょっとずつこれまでの気持ちがふっとんだ。 C5：勇気が出てきた。

C6：うみのおくってすごいな。わくわくしてきた。

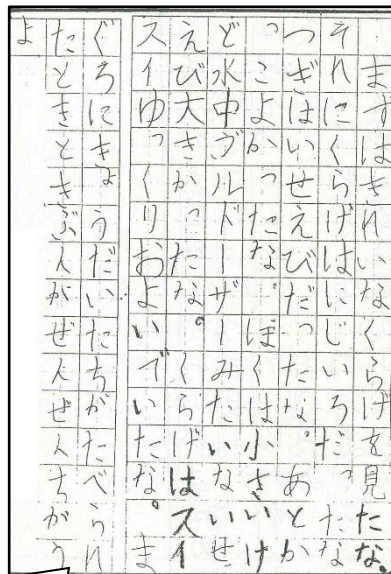
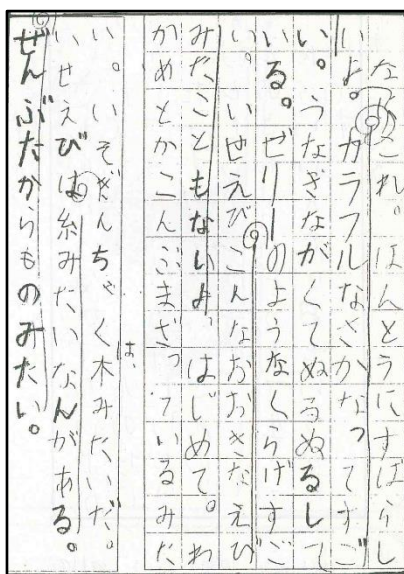
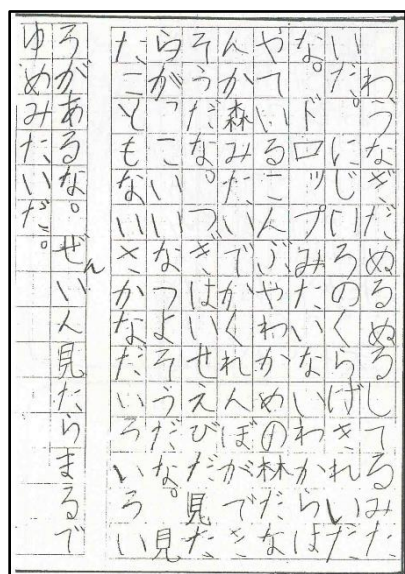
（逐語録① スイミーの気持ちの変化に対する発問と応答）

板書（資料⑥）は、視覚的に児童の思考が整理できるように構造化を図った。すばらしい海の生き物の挿絵を上下ずらしながら貼り、ペープサートのスイミーが泳ぎながら生き物に出会えるようにした。

このように、授業展開、交流方法、板書を工夫することで、一つ一つの生き物のおもしろさや海のすばらしさ、そして、スイミーの気持ちの変容をとらえることができた（資料⑦）。



（資料⑥ Ⅱ次8時：本時の板書）



（資料⑦ Ⅱ次8時：本時 児童ノート）

第二場面のまぐろと出会ったときと比較して、スイミーの気持ちを考えることができています。

視点③ 評価について

○交流の場における評価

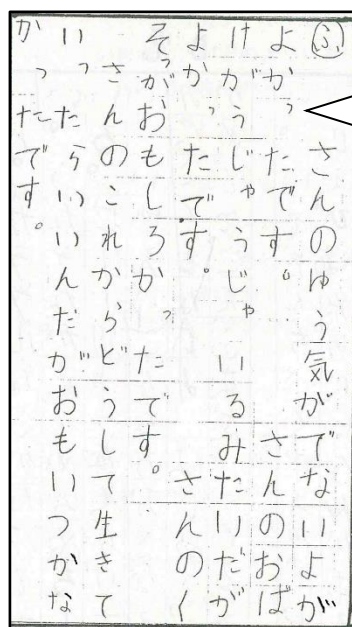
- ・ 毎時間、学習課題に対する自分の考えを短い言葉でまとめることができるようにする。
- ・ 学習活動（主に交流）を振り返って、自分の考えの変容（深まり・広がり）に気付くことができるようにする。

○言語活動と思考力・判断力・表現力の評価

- ・ 考えをまとめた学習ノートや言語活動を通してできた成果物の中に付けたい力（比較・順序・理由付けなどの思考力）がどのように身についているかを指導者が評価する。
- ・ 友達のノートや成果物でよいところを認め合えるようにする。

評価は、毎時間の自分の考え（心内語）や振り返りを書いたノート、成果物で行った。

毎時間の振り返りには、わかったことや楽しかったこと、友だちの考えを聞いて思ったことなどを書くようにした。「〇〇さんの・・・の言葉がよかった。」（資料⑦）と、言葉にこだわって書く児童が多くなった。ペア交流した友だちの心に残る言葉やいいなと思う言葉を書く児童も増えた。また、「ぼくが言ったことに、たくさんの友だちが感想を言ってくれてうれしかった。」（資料⑧）と、認め合うことで自信につながり、安心して発表できる雰囲気になった。さらに、「私は～と書いていたけど、・・・だとわかった。」（資料⑨）と、交流を通して自分の間違いや、自分の読みが浅かったことに気付く児童もいた。学習中に発表できなかった児童の考えは、翌日の朝の会で紹介し、よいところなど感想を伝え合う時間を設定した。



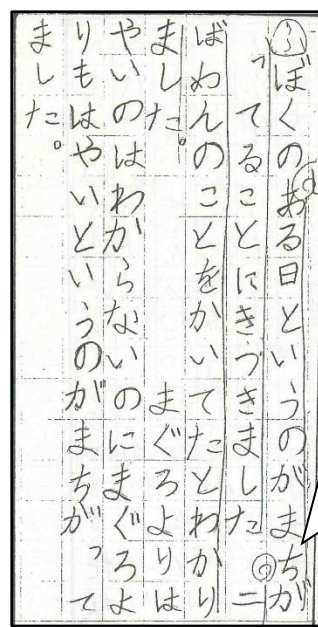
（資料⑦ 児童ノート）

交流を通して、友達の考えでよいところを認め、学び合うことのよさが実感できている。



（資料⑧ 児童ノート）

交流を通して、自己有用感を感じることができている。



（資料⑨ 児童ノート）

自分の読みの間違いに気づくことができている。

Ⅲ次では、以下のような構成で、「お手紙カード」を書いた。

- ・ 本のなまえ
- ・ お気に入りの場面の絵
- ・ スイミーにつたえたいこと

児童は、Ⅱ次の学びを活かし、「お手紙カード」を書くことができた。（資料⑩）

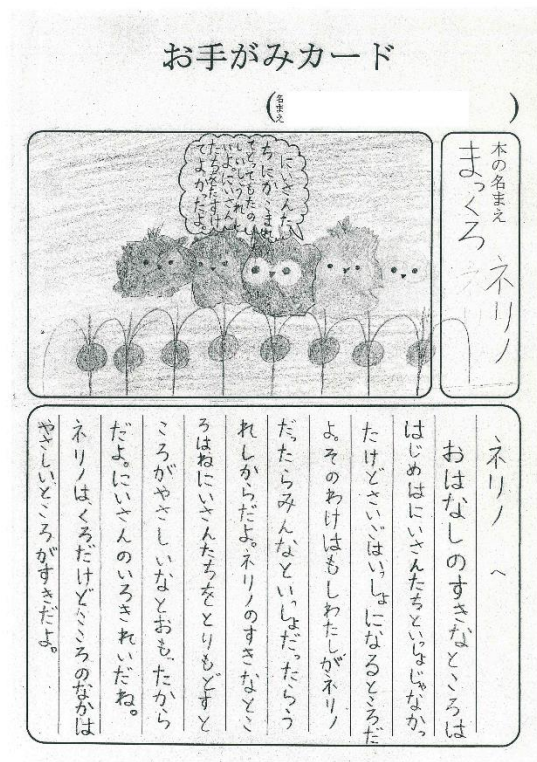
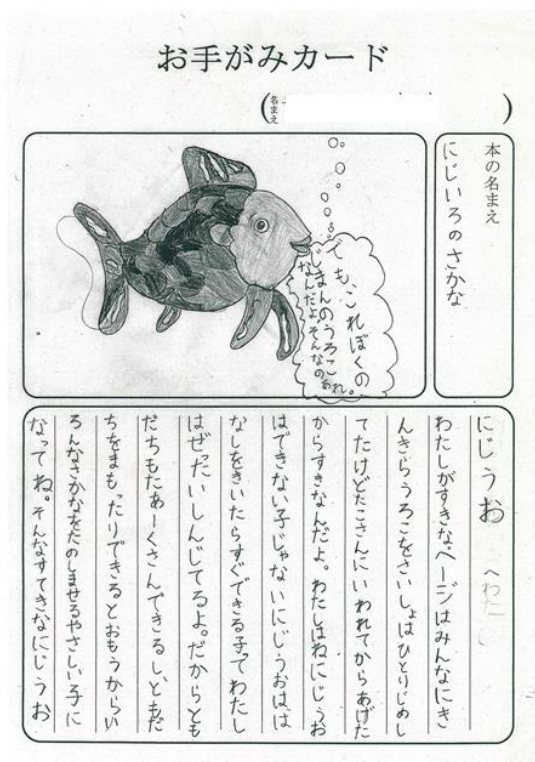
五場面で、スイミーがまぐろを追いつけるのに必要な情報を活用することができている。

- ・スイミーが目になる
- ・赤い魚にまぐろみたいなること

五場面のスイミーの行動と場面の様子から「きょうりょくする」という意味を解釈することができている。

登場人物スイミーが「たくさん考えて、かしこい魚」であることをとらえて、どのようにかしこいのかを具体的に書くことができています。

（資料⑩ 児童が書いたお手紙カード）



(3) 考察(成果…○ 課題…●)

視点① 教材文分析について

- 観点をもって初発の感想を書き、それらの感想を交流することで、あらすじをつかんだり、学習課題を設定したりすることができた。その結果、単元全体の見通しをもつとともに、学習意欲を高めることができた。さらに自分と友達の感想を比較したり関連づけたりしたことで、言葉に対する理解を深めることもできた。
- 最初の場面と最後の場面の2枚の挿絵を比べ、同じところとちがうところを話し合うことで、単元全体の大きな課題をつかむことができた。

視点② 交流について

- 自分の考えを書いたり、交流したりする際には、「①言い換え ②比べて ③つなげて ④自分も・自分だったら」を繰り返し伝え、意識できるようにした。意識付けすることで、児童は「他の言い方」「付け足し」「ぼくも・・・」など、活発に考えを伝え合い、語彙のイメージを広げたり、内容を深く理解したりすることができた。
- 比較を取り入れ、思考する場を多く設けたことで、叙述の言葉にこだわりながら、想像を広げて読むことができた。
- 全体交流の前にペア交流を行ったことで、全員自分の考えを友達に伝え、感想を聞くことができた。また、書いたものを声に出して読むことで、誤字・脱字に気付いたり、自分の考えを確かめたりすることができ、全体交流への発表意欲も高められた。
- 効果的なペア交流になるよう、ペア交流の目的(自分の考えを伝え、確かめる・自分の考えを広げ、深める・話し合って考えを生み出す)と内容を明確にし、いつどのタイミングで行うかや、時間配分についても考えることが大切である。

視点③ 評価について

- 毎時間の振り返りでは、友達の考えの中からよかった言葉を見つけることができた。その結果、語彙を増やしたり、言葉にこだわって友達の考えを聞いたりすることにつながった。
- これまで学習してきたことを生かして、登場人物へのお手紙を書くことができた。スイミーの絵に、心内語をたくさん付け足す児童も見られた。
- Ⅱ次では、登場人物になって書く活動(同化)であったが、Ⅲ次では、登場人物から離れて手紙を書く活動(異化)だったため、戸惑う児童もいた。同化から異化の活動に転換する学習内容をⅡ次の中に入れる必要がある。